

緑のカーテンの効果①



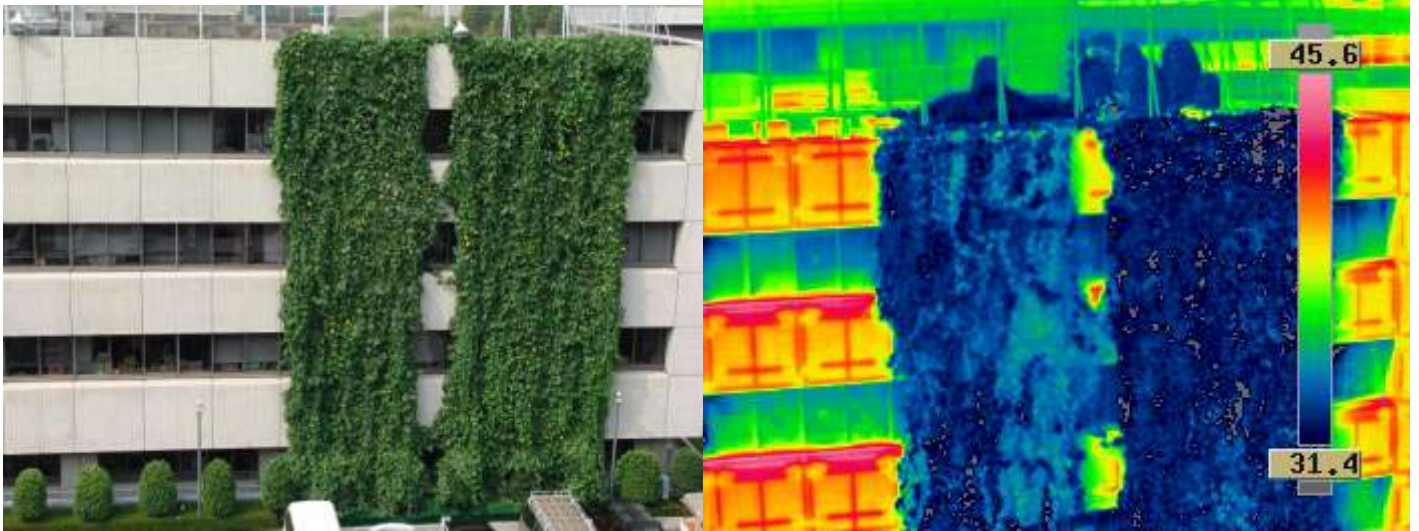
当園で行っている
緑のカーテンにより、
次のような効果が期
待できます。

① 日射をさえぎる
日陰をつくることで、
周囲の温度が上がる
のを防ぎます。

② 蒸散作用を利用して涼しくなる 葉の表面
から水分が蒸発(これを蒸散という)する際に、
気化熱を奪います。だから、まわりの気温が下
がります。

③ 熱をためない 一度熱くなった壁からは、
じわじわと熱が放出されます。これを防ぐこと
で、体感温度を低く抑えることができます。

緑のカーテンの効果②



例:東京都板橋区役所

緑のカーテン部分は温度が低い（青い部分）

当園の緑のカーテンのアサガオで、葉の表面と近くに置いた緑の布の表面温度を比べたところ、最大9℃、葉の表面温度のほうが低くなりました。また、カーテンの内側においた水槽の水温も外側より低くなりました。

7月末のある日のアサガオの巨大カーテン温度

時刻	気温	水温 (日向)	水温 (カーテン内)	アサガオの 葉の表面	緑の布 (表)
9:00	30				
10:00	測定開始	26.0	26.0	26.0	29.0
11:00		26.0	26.0	29.5	32.5
12:00	33.0	28.0	27.0	31.5	33.5
13:00		30.0	30.0	35.5	37.0
14:00		32.0	30.5	35.0	44.0
15:00	35.0	34.5	31.0	35.0	42.5
16:00		41.0	32.5	32.5	39.0
17:00		40.1	32.0	32.5	37.5
18:00	32				

家でできる緑のカーテンづくり

① ノアサガオ

(流通名リュウキュウアサガオ、
品種名オーシャンブルー等)



秋深くなるまで
緑の葉を繁らせて
くれます。夏～秋に
たくさんの花をつ
けます。霜よけをす
れば冬を越します。

★**植え付け** 霜が降りなくなったら、市販されている苗を株間50～70cmで植え付けます。

★**つるの誘引** 誘導ひも又はネット張りを5月に行い、巻き付くタイプのつるをひもに誘引します。

★**管理** 水やりは、朝夕の涼しい時間に行います。追肥は5月下旬頃から2～3週おきに、1㎡あたり化成肥料20～30g与えます。



ノアサガオのほかにゴーヤやヘチマなどで作る緑のカーテンが人気です。

② ニガウリ（ゴーヤ）

病害虫に強く栽培は容易、果実は食用になります。

★種まき 5月中旬 十分に暖かくなってから種をまくのがコツ。

★植え付け 本葉2～3枚のころが定植適期。株間は1～1.5m

子づるを3～4本伸ばします。

★管理 つるを上に向けて誘引する。つるが勢いよく伸び始めたら、2週間に1回程度、1㎡あたり化成肥料20～30gを追肥します。十分水をあげることが大切です。

学校の取り組み



当園の緑のカーテンに用いているアサガオは、小学校で育てたアサガオ (*Pharbitis nil*) とは違って、ノアサガオ (*Pharbitis congesta*) のオーシャンブルーという品種。

ノアサガオは沖縄などに分布する野生種で、とても強い性質の植物です。根が残ってふえる多年草です。

壁面緑化に向く植物として 2008 年から広島市内の広島市役所本庁舎、ファミリープール建物壁面、中島小学校、中野東小学校、比治山小学校、伴東小学校などに植えられています。

植物公園の取り組み 腐葉土づくり



広島市植物公園では、園内の枯れ葉を集めて腐葉土を作り、園内の土作りに再利用しています。

また、アサガオの巨大カーテン展示終了後の、大量の葉やつるを焼却処分するのではなく、堆肥化して再利用しています。